

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第25号

2019(平成31)年1月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 大和山辺木綿 — Brandとしての「やまとやまのべもめん」—

H. A. M. A. 木綿庵(ゆうあん)が活動を開始して11年目の記念日を迎えました。当庵の設立は平成20年(2008)1月26日。不登校やひきこもり、うつなど心がうつむきがちな人々が少しでも心やすらぐ居場所でありたいと、「居場所づくり」をめざし、活動を開始しました。拠点は畑。野菜や綿の栽培、綿の加工を通して、人や自然、社会やモノと関わる喜び、明日を楽しみに過ごす喜びを共にしたいと念じて取り組んでいます。

昨年9月には、奈良県の登録制度実施規定に基づき、正式に「若者のための居場所」として登録されました。H. A. M. A. 木綿庵をはじめ各種機関の登録情報は奈良県の公式ホームページに掲載されています。<http://www.pref.nara.jp/37901.htm>をご覧ください。

綿の栽培も順調に進み、去年は耕作放棄地を一部借り受け、耕作面積を拡大しました。木綿庵の取り組みに協力してくださる方々のおかげで、畑の管理にも見通しがつくようになってきたためです。また、綿の加工に関しては、昨年12月によく念願の「大和機(やまとばた)」にたどりつきました。2年前からお世話になっている相楽木綿伝承館の機織り教室では、各級4ヶ月コースで初級、中級、上級を修了し、専科コースに進んでようやく「大和機」で機を織ることができるようになります。それだけ扱いが難しいということで、これまで用いてきた飛び杼式のボタン(チョンコ機)と比べて経糸が緩く、杼を通すにも、箆打ちにも戸惑うばかりです。これからです！

糸紡ぎについては、できるだけ1日最低1匁(約3.75g)を紡ぐように心がけて2年が経過したものの、次々と出て来る新たな課題に手こずり、なかなか納得できるような糸を紡ぐまでには至りません。今のところ、経糸(たていと)に用いることのできる「6番手」相当の糸を、できるだけ柔らかく均一に紡ぐことを当面の目標に掲げています。

さて、いよいよ木綿庵の畑で収穫した和綿から手紡ぎした糸で、大和機を用いて機織りができるようになる日が現実のものとなってきました。そこでこの機会に、木綿庵の綿製品や綿種に固有の名称を付けることにしました。最近では奈良県内でも綿の栽培に取り組む団体や企業、法人が増えてきており、ブランドとしてはすでに大和高田市さんの「奈良さくらコットン」が有名で、これからは種のルーツを含めて、個々の製品や綿種の差別化が必要になってくるかもしれない、との判断でもあります。木綿庵の和綿の種のルーツは本誌第11号に記載のとおり、2007年に奈良県の榛原で綿を栽培されていた方から分けていただいたものです。その方は大阪府岸和田市から種を入手されたそうですが、すでに大和の地で12年以上にわたって栽培が繰り返されており、すっかり大和の風土、木綿庵の地に適応した品種となっているはずですが。そこで木綿庵の綿と綿製品に、「大和山辺(やまとやまのべ)コットン」、「大和山辺木綿(やまとやまのべもめん)」という名称を付したいと思えます。幕末から明治期に一世を風靡したかつての特産品「大和木綿」復活への願いをこめて。



大和機を用いての初めての機織り

### Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年12月24日～平成31年1月23日)

北海道1、神奈川県1、大阪府1、兵庫県2、岡山県1、愛媛県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年12月24日～平成31年1月23日)

メールを含む各種相談件数3、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数4件8名



## 《綿の栽培記録 2018》 — 平成30年度版 その7 —

平成30年12月27日、年末恒例の「綿木引き」を行いました。綿はアオイ科の植物で、同じアオイ科の野菜のオクラと花や葉のイメージが大変よく似ています。しかも根の張り方までそっくりで、地中にしっかりと根を張ります。そのため、抜くときには力が要ります。かつては綿木引きの作業は「一日に男は二段、女は一段半が普通と言われて居た」（『稿本天理教教祖伝』15頁）らしく、特に土が乾燥しているとなおさら力が要ります。また、和綿に比して洋綿の方が一段と手強いです。

1号畑の綿木は150本ほどとはいえ、一人ではなかなか骨の折れる作業ですが、今回は天理参考館学芸員の中谷様と畑の利用者様のお2人が応援に来て下さり、1時間余で作業を終えることができました。



## 《綿の収穫量の記録 2018年産》

今季(2018年、平成30年産)の綿の総収穫(実綿)量は下記の通りです。なお、今季は1号畑に加えて、2号畑西隣の耕作放棄地を借り受け、和綿(白)81株を栽培しました。そのため、1号畑と合わせて、今季の和綿(白)の栽培数は181株となります。また、和綿(茶)を、2号畑にて実験的に16株栽培しました。洋綿は白のみで、1号畑にて40株を栽培しました。

◇和綿:白(181株) 実綿6,522g+コットンボール約1,000個(実綿換算2,280g)=実綿8,802g

◇和綿:茶(16株) 実綿458g+コットンボール10個(実綿換算102g)=実綿560g

◇洋綿:白(40株) 実綿1,933g+コットンボール約150個(実綿換算750g)=実綿2,683g

※コットンボールの個数は、コットンボールの状態で保管もしくは販売済の数を示しています。コットンボール1ヶあたりの実綿の量は個体によってもまちまちで、和綿・洋綿では大きく異なります。今季の換算率は下記の通りです。

和綿のコットンボール50ヶあたりの実綿重量=114g。洋綿のコットンボール10ヶあたりの実綿重量=50.2g

### 【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

・糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿:平成28年,2016産。丹羽正行氏による打ち綿)

12月24日~1月23日(作業実日数18日) 糸の総量68.7g(18.3匁) 総時間180分(3時間0分)

※1分間≒0.382g 1時間≒22.9g(6.1匁)

### 【研修等の記録】

・平成30年12月23日「子ども・若者支援のための事例検討会」(奈良教育大学)参加

・平成30年12月27日 木綿庵1号畑にて綿木引き

・平成31年01月02日 木綿庵2号畑のトラクター小屋トタン屋根を10年ぶりに全面葺き替え

【以下の写真は、左:織り付け、中:大和機の全景、右:あぜ棒ともじり。相楽木綿伝承館にて】

